

平成27年度

高校教育研究係

調査・研究

(まとめ)

目次

1. はじめに	1
2. 平成27年度高校教育研究係の調査・研究について	1
3. 群馬県高校生ステップアップサポート事業の概要	2
4. 高校生ステップアップサポート事業に関わる校内研修支援の概要	5
5. 校内研修の具体的なプログラム例	
(1) 校内研修のためのプログラムについて	6
(2) 各プログラムのねらい及び内容について	6
(3) 高校生ステップアップサポート事業のテーマ設定について	7
(4) 高校生ステップアップサポート事業を踏まえた言語活動の充実について	15
(5) 高校生ステップアップサポート事業における評価の在り方	28

1. はじめに

高校教育研究係では、平成25年度と平成26年度の2年間で、「高等学校における校内研修の活性化 ―同僚性をはぐくみ組織の活性化を図る、演習を中心とした研修プログラムの構築―」のテーマで、調査・研究を行った。具体的には、各学校が演習・協議を中心とした校内研修を実施できるような校内研修支援プログラムを作成した。プログラムの内容は、各学校から総合教育センターの研修支援隊への申込みが多かった項目に絞り、クレーム対応、危機管理、授業改善（授業研究、言語活動、発問等）、評価、カリキュラムマネジメント、キャリア教育などについて校内研修を実施する場合の、進行計画や関係する資料を一つのパッケージにしたものである。平成26年度末には、パッケージ化した個々のプログラムを冊子にまとめ、各学校に配付した。平成27年度も、引き続き校内研修支援の在り方を調査・研究することにした。

2. 平成27年度高校教育研究係の調査・研究について

平成27年度より群馬県教育委員会高校教育課は、全ての県立高等学校を対象に高校生ステップアップサポート事業を推進している。高校生ステップアップサポート事業とは、生徒が主体的に学習に取り組む態度を養うために、教員が課題解決型の授業を展開し、学校全体が組織的に研究授業等の校内研修を実施して教員の専門性を高めることを目指したものである。各学校ではこの事業に取り組むのに際し、教員に対する事業の周知徹底、さらには具体的な指導方法の検討などを目的とした校内研修を実施することとなった。高校教育研究係では高校教育課と連携を図りながら、各学校からの研修支援の要請に応えるとともに、高校生ステップアップサポート事業を全面的にサポートしている。今年度、高校教育研究係がこの事業に係わり実施した研修支援は平成28年2月末現在で延べ26回である。次年度も引き続きこの事業をサポートするとともに、各学校から多くの要望があった項目について校内研修プログラムを作成し、参考資料をここにまとめた。

3. 群馬県高校生ステップアップサポート事業の概要

(高校教育課 平成27年5月12日 第1回校内研修研究協議会での配付資料より)

(1) 主旨

知識基盤社会が到来し、急速に社会が変化する中、幅広い知識と柔軟な思考に基づき判断する力や、他者と切磋琢磨しつつ異なる文化をもつ人々と共存する力など、変化に対応する能力が求められている。

このような状況の中で、一人一人の生きる力を育むことを目指し、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うためには、生徒が主体的・協働的に取り組める課題解決型の授業展開を推進し、組織的に研究授業や授業研究等の校内研修を実施して教員の専門性を高めることが重要である。

(2) 事業概要

① 重点指導事項

本事業は、「学習指導の4つの柱」を重点指導事項として位置付け、各学校の創意工夫により、これら「学習指導の4つの柱」全てを、学校全体で組織的・計画的に実施する。

【学習指導の4つの柱】

1 学習ルール の 定着	・授業中のモラル・マナーを定着させ、生徒の良好な人間関係や学級の仲間意識を育て、聴き合い・教え合う関係をつくる。
2 学習目的 の 理解	・学ぶ目的や社会生活との関連を理解させ、積極的に授業に取り組む態度を育てる。
3 学習方法 の 多面化	・生徒が主体的・協働的に授業に取り組めるよう、課題解決型の授業展開や、要約・説明・論述・討論等を行う言語活動、ICT活用等の様々な学習方法を取り入れる。
4 社会参画力 の 育成	・社会の発展に寄与する市民性を育て、社会の構成員として必要なものの見方や考え方を培う。

② 構成

本事業は、次の2つの研究をもって構成する。

- ・ 全ての県立高等学校等を対象とした「組織的授業改善研究」
- ・ 県教育委員会が指定する研究推進校による「総合的実践研究」

③ 全ての県立高等学校等を対象とした「組織的授業改善研究」

- ・ 全ての県立高等学校等において共通テーマに取り組むとともに、必要に応じて選択テーマに取り組む。

【共通テーマ（全ての学校が共通して取り組む）】

知識・技能を活用した言語活動の充実について
協働的な学習（学び合い学習）について

【選択テーマ（各校が選択して取り組む）】

選択テーマ①	学力定着に課題のある生徒に対する支援について
選択テーマ②	学び直し学習の効果的な進め方について
選択テーマ③	ICTを活用した効果的な指導について
選択テーマ④	知的好奇心を喚起する教材の開発について

- ・ 実施に当たっては、「学習指導の4つの柱」と関連付け、組織的に研究授業や授業研究等の校内研修を実施し、指導方法の工夫改善により教員の専門性を高め、記録、要約、説明、論述、討論等の言語活動を段階的に行い、思考力、判断力、表現等の育成を図る。
 - ・ 生徒がグループやペアで学び合うなどの課題解決型の授業展開を推進することにより、主体的に学習に取り組む態度を育て、思考力、判断力、表現力等の育成を図る。
 - ・ 研究推進校の取組を参考にして実施する。
- ④ 県教育委員会が指定する研究推進校による「総合的実践研究」
課題解決に向けてグループやペアで学ぶ協働学習や学び直し学習についての総合的実践研究を行い、つまづきやすい学習内容の確実な習得を図り、思考力、判断力、表現力等の育成を図る。

(3) 実施内容

① 組織編成等

- ・ 校内研修推進委員会を組織する。
- ・ 校内研修推進コーディネーターを指名する。
- ・ 共通テーマ及び選択テーマについての研究を推進する。

② 実施計画書の提出

校長は、群馬県高校生ステップアップサポート事業実施計画書により研究計画を作成し、指定された期日までに高校教育課長あて提出する。実施計画書作成に当たっては、次の③～⑧に配慮しながら、学校の創意工夫を生かし、調和のとれた具体的な計画を作成する。

③ 校内研修会

- ・ 全教員が参加する校内研修会を開催する。
- ・ 年2回以上開催する。

④ 研究授業及び授業研究

- ・ 共通テーマ及び選択テーマに沿った研究授業及び授業研究を開催する。
- ・ 学年別の実施する。
- ・ 全教員が年2回以上授業参観を行う。
- ・ 授業研究では、教員を4人程度の小グループに分けて協議する。

⑤ 授業アンケート

- ・ 生徒を対象とした全教員・全教科の授業アンケートを実施する。
- ・ 授業アンケートは年2回以上実施する。
- ・ 管理職は、授業アンケート結果を各教員に適切にフィードバックする。

⑥ 保護者等への授業公開

- ・ 年2回以上実施する。

⑦ 管理職による授業参観

- ・ 全教員を対象とした授業参観を適宜実施する（報告は不要）。

⑧ 実施報告書の提出

- ・ 校長は、群馬県高校生ステップアップサポート事業実施報告書により自校の研究成果及び課題等についてまとめ、指定された期日までに高校教育課長あて提出する。

(4) 内容の取扱い

① 校内研修推進コーディネーターの役割について

校内研修推進コーディネーターは、各学年の連絡・調整を行い、実施計画に基づいて、全教員が参加する校内研修会や各学年ごとの授業研究会の設定や運営等を行う。なお、共通テーマ及び選択テーマの留意点は次のとおりである。

・ 共通テーマについて

生徒の学習過程に焦点をあてて、コの字型の机配置やグループでの課題解決型の授業展開による指導方法の研究を行う。課題については、生徒の実態を踏まえ、大多数の生徒が共有できる教科書レベルの課題と、教科の専門性や本質に根ざした高度なレベルの課題を用意し、生徒が知的好奇心をもって主体的に学習できるような課題づくりを研究する。また、知識・技能を活用する学習活動、とりわけ記録、要約、説明、論述、討論等の言語活動を取り入れた指導方法の研究を行う。

・ 選択テーマ①及び②について

生徒の学習到達状況に応じて、高等学校の学習内容と義務教育の学習内容や社会生活の事象を関連付けて系統的に学ぶ教材開発を行う。また、つまずきやすい学習内容の確実な習得を目指して、グループやペアによる授業実践についても研究する。

・ 選択テーマ③及び④について

生徒の発達段階に応じて、ICTの活用や教科の専門性の高い教材等を活用して、知的好奇心を喚起し、生徒が自ら課題をもちそれに向けて挑戦していく授業実践について研究する。また、教師による一方的な説明に終始することなく、生徒の学習に視点を置いた活動も取り入れた実践について研究する。

② 授業研究会における協議の視点については、次のとおりである。

- ・ 生徒の主体的な学習姿勢が見られたか。
- ・ 生徒がどこでつまずいていたか。
- ・ 生徒の学習がどこで深まっていたか。(どこに学びが深まる可能性があったか。)
- ・ 生徒の学習意欲の喚起や学習習慣の定着が図られていたか。

③ 授業中の生徒指導の充実と授業実施の基本的スキルの確認

次の事項は、授業実施の前提条件であり、管理職は、全教員に対して年度当初に確認し適切に指導することが必要である。

・ 授業に臨む生徒の姿勢づくり

授業の開始及び終了時のあいさつや授業中の発言、授業を受ける態度等についても適切に指導を行い、生徒の授業中の規範意識高揚に心掛ける。

・ 授業実施の教員の基本的スキルの確認

教員の言葉遣い、発声、板書、プリント、説明及び机間指導等をより適切なものとするよう心掛けるとともに、生徒をしっかりと把握した授業づくりができるように不断の努力をする。

4. 群馬県高校生ステップアップサポート事業に関わる校内研修支援の概要

平成27年度に高校教育研究係が担当した研修支援は、例年の研修支援の数を大きく上回った。特に高校教育課が県内全ての高等学校を対象として推進している群馬県高校生ステップアップサポート事業に係る研修支援がその大半であった。高校生ステップアップサポートについての研修支援は、右表のとおり延べで26回（25校）実施した（3月8日現在）。

研修支援の概要は以下のとおりである。

(1) 5月の研修支援

群馬県高校生ステップアップサポート事業の概要を各学校の職員に周知することをねらいとし、事業の概要説明を中心とした研修を行った。

(2) 6月～7月の研修支援

6月以降は高校生ステップアップサポート事業も各学校で周知されるようになった。その結果、各学校での課題はそれぞれの教科・科目において、具体的にどのような指導方法が考えられるかというものになった。研修支援の進め方も、学年毎に教科の枠を越えた小グループを編

成し、ある教科について指導方法を協議したり、教科毎に分かれ指導方法を検討したりする演習形式での研修を行った。アクティブ・ラーニングという言葉が広まりつつあり、研修支援においてもアクティブ・ラーニングという言葉を使って説明するようになった。

(3) 2学期以降の研修支援

2学期以降は、この事業の趣旨に沿った授業が各学校で展開されるようになったのを踏まえ、すでに実践している活動をさらにどう改善するか、また授業中の活動をどう評価するかが課題となってきた。そのため、研修支援の内容も、授業改善と評価について検討・協議するものへと変わった。研修支援のアンケートを見ると、「～の教科について、具体的な指導例を示してほしい」、「～の教科について、具体的な評価の方法を教えてください」という意見が複数あった。学習指導方法や評価方法は、生徒の実態を理解している教員が、その学校にとってより良いものを創出する以外に方法はない。今後も自分の学校に合った学習指導方法、評価方法を創出できるよう支援する必要がある。

月日	曜	学 校 名
5月 7日	木	県立榛名高等学校
5月20日	水	県立沼田女子高等学校
5月25日	月	組合立利根商業高等学校
5月26日	火	県立前橋工業高等学校
5月27日	水	県立前橋東高等学校
6月22日	月	県立前橋南高等学校
6月25日	木	県立中之条高等学校（高校教育課対応）
6月26日	金	県立高崎北高等学校（第1回）
6月29日	月	県立利根実業高等学校
6月29日	月	県立伊勢崎高等学校
6月29日	月	県立高崎商業高等学校
6月30日	火	県立伊勢崎興陽高等学校
6月30日	火	県立太田工業高等学校
7月 1日	水	県立高崎工業高等学校
7月 1日	水	県立伊勢崎商業高等学校
7月 1日	水	県立前橋商業高等学校
7月 1日	水	県立孺恋高等学校
7月10日	金	県立伊勢崎工業高等学校
8月 7日	金	県立渋川工業高等学校（高校教育課対応）
10月19日	月	県立前橋西高等学校
10月20日	火	県立太田東高等学校
11月 9日	月	県立沼田高等学校
11月24日	火	県立藤岡中央高等学校
11月25日	水	県立桐生南高等学校
12月 4日	金	県立高崎北高等学校（第2回）
12月21日	月	県立勢多農林高等学校

表1 ステップアップサポート事業に係わる校内研修支援
（高校教育課対応2回を含む）

5. 校内研修の具体的なプログラム例

(1) 校内研修のためのプログラムについて

今年度、高校教育研究係が県内各学校の高校生ステップアップサポート事業について、校内研修支援で要請を受けた項目は、各学校の研究テーマを踏まえたステップアップサポート事業の概要説明、授業改善の中心的な課題となっている言語活動の充実や協働学習について、言語活動や協働学習における評価の在り方、ステップアップサポート事業と大学入試改革についてなどである。その中で、特に支援要請の多かった次の3つの項目について、校内研修支援として研修の具体的なプログラムを作成した。

- ・高校生ステップアップサポート事業のテーマ設定について
- ・高校生ステップアップサポート事業を踏まえた言語活動の充実について
- ・高校生ステップアップサポート事業における評価の在り方

上記のプログラムは、校内研修推進コーディネーター等が中心となって、60分程度の校内研修を実施できることを目的に作成した。

(2) 各プログラムのねらい及び内容について

① テーマ決定のための校内研修プログラム

案1と案2の2つのプログラムを作成した。案1は、各教員がすでに取り組んでいて効果を上げている活動をもとに、さらなる伸長を目指すことでテーマを設定するものである。案2は、学校全体又は各教員が抱える問題点や課題を洗い出し、その解決方法を検討することからテーマを設定するものである。

② 言語活動の充実のための校内研修プログラム

案1と案2の2つのプログラムを作成した。案1は、各教員が自分の授業を振り返り、それぞれが抱える課題や問題点を確認し、そこから授業改善の具体的な方法を検討するものである。案2は、ある1つの教科について20分程度の模擬授業を実施し、生徒の立場になって授業改善の方法を検討するものである。ここでは、英語、日本史、数学について、20分程度の模擬授業ができるような課題と進行案を作成した。

③ 高校生ステップアップサポート事業における評価の在り方

指導と評価の一体化が求められている中、授業中の言語活動や協働学習の評価については、生徒の実態に合わせた評価方法が必要である。プログラムでは、それぞれの学校において、各教科で具体的に何をどのように評価するかについて検討できるような進行案を作成した。

(3) 高校生ステップアップサポート事業のテーマ設定について

<案1>

ー 現在できていることのさらなる伸長を目指して ー (60分)

ねらい： 生徒の実態に合ったステップアップサポート事業に関わる自校のテーマについて全職員で協議する。

I 高校生ステップアップサポート事業について (15分)

・プレゼンテーションソフトで作成した資料を使っての概要説明・・・15分

II 演習「授業の振り返りとさらなる充実を目指して」(30分)

【各学年団で1グループ(学年団の人数が多い場合には学年団も小グループにする)】

1. 各教科ですでに実践している言語活動の共有

次の項目について、付箋紙に書き出す(1枚につき1項目)・・・5分

・活動の種類・内容

「～について話し合う」、「～について発表する」、「～について討論する」など、具体的に記述する。

2. グループ内で付箋紙に書き出した活動について一人ずつ説明する。その際、付箋紙は同じ項目でまとめグループ化しながら貼り出す。(一人につき3分)・・・15分

3. 今取り組んでいる言語活動を比較し、自校の生徒の資質・能力を伸ばすのにふさわしい言語活動を検討する。さらに、グループでの討論後、自校にふさわしいテーマ案を1～3個にしぼる。・・・10分

III 検討内容の共有 (10分)

各グループ(各学年)のテーマ案を発表する。・・・10分

※ 最終的なテーマについては、関係する職員等で決定する。

IV まとめ (5分)

<案2>

－問題発見とその是正を目指して－ (60分)

ねらい： 生徒の実態に合ったステップアップサポート事業に関わる自校のテーマについて全職員で協議する。

I 高校生ステップアップサポート事業について (15分)

プレゼンテーションソフトで作成した資料を使っての概要説明・・・15分

II 演習「問題発見・原因究明とその改善を目指して」(30分)

【各学年団で1グループ(学年団の人数が多い場合には学年団も小グループにする)】

1. 授業中の言語活動について、各教科の課題(問題点)を共有

次の項目について、付箋紙に書き出す(1枚につき1項目)・・・5分

・言語活動の現状

「話し合いの機会を与えても話し合わない」、「話し合いの時間を与えても私語が多くなってしまう」、「討論をするほどの知識がない」など、具体的に記述する。

2. グループ内で付箋紙に書き出した問題について一人ずつ説明する。その際、付箋紙は同じような問題でまとめグループ化しながら貼り出す。(一人につき3分)・・・15分

3. グループ化した問題の原因を究明し、その改善策を検討する。グループでの討論後、自校にふさわしいテーマ案を1～3個にしぼる。・・・10分

III 検討内容の共有 (10分)

各グループ(各学年)のテーマ案を発表する。・・・10分

※ 最終的なテーマについては、関係する職員等で決定する。

IV まとめ (5分)

第1回校内研修研究協議会

—群馬県高校生ステップアップサポート事業—

平成27年5月12日(火)

群馬県総合教育センター704研修室

高校教育課
総合教育センター

1

高校生ステップアップサポート事業が必要とされる背景

最近(従前)の授業のようす



「私語の禁止」「教師の指示に従う」
「教師の説明を聞き、板書をノートに写す」



先生方の努力で「おしゃべり」「内職」は減少
教室は整理整頓され、授業は静かに粛々と進む



でも・・・ 教師の願いはかなえられているか!?

「学ぶことの喜びを感じてほしい」「教科(学問)の真髄を学びとってほしい」
「居眠りをなくしたい」「中退を減らしたい」「合格実績を上げたい」etc



「自分の授業に行き詰まりを感じている」先生方も多いのでは・・・ そこで

2

高校生ステップアップサポート事業で課題解決型授業を!!



※ 課題解決型授業とは
基礎的な知識・技能を活用して課題を解決していく過程で、思考力、判断力、表現力などの力を身に付けさせることを目的とした授業
協働学習(グループで課題解決学習)を行うことで、思考力、判断力、表現力などの21世紀型能力を育成する

学校教育
の転換期

21世紀の学校<知識基盤社会>

高度の知識や情報を扱う知識労働や対人サービスを行う専門職による労働市場

(単純労働市場の中心は途上国へ移転)

労働に必要な知識や技術は流動化し生涯にわたり学び続ける生活必要



多種多様な分野の人と協働しながら、新しい時代を切り開いていくことができる人材が求められている。

3

一斉指導偏重から脱却必要



→ともに生き生きと
学び合う協働学習

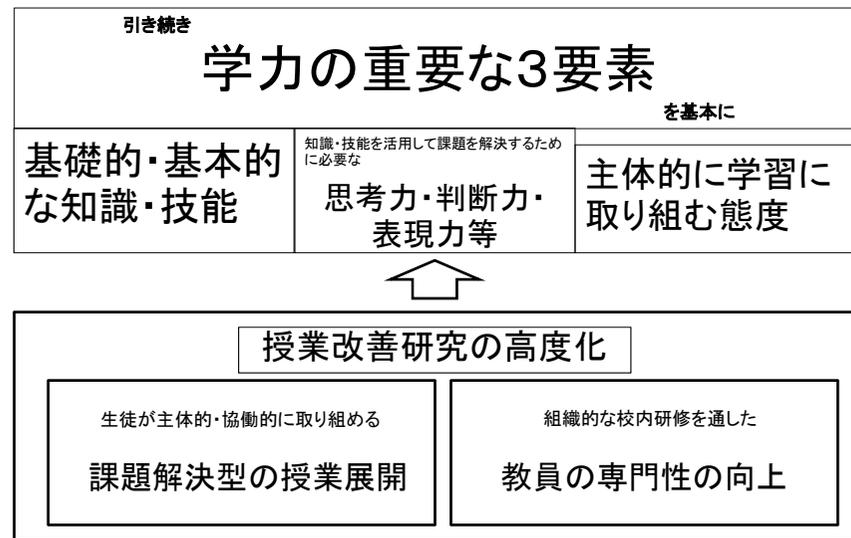
4

例えばこんな言語活動で授業改善

文部科学省

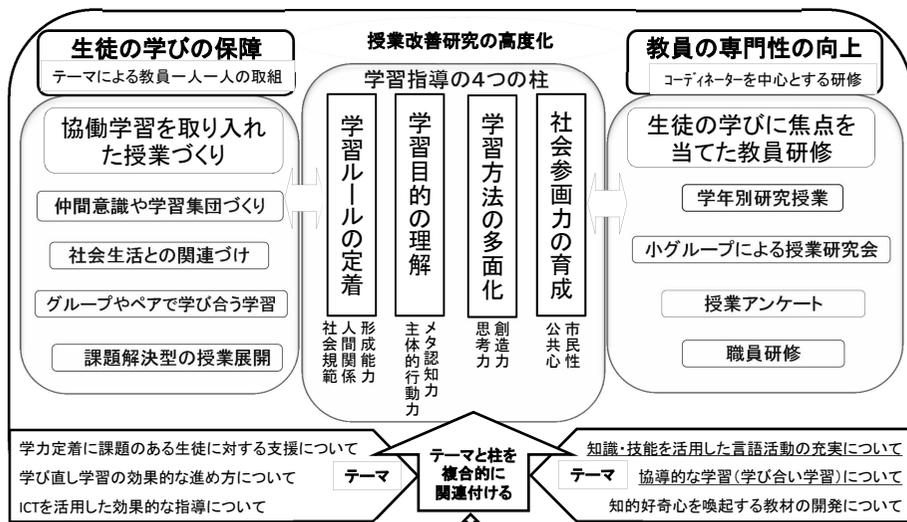


高校生ステップアップサポート事業の概要



群馬県高校生ステップアップサポート事業《体制図》

県内公立高校による組織的授業改善研究 高校教育課
～ 学びの保障と専門性の向上～



学習指導の4つの柱

～校内職員研修推進に際して複合的に関連付けたいこと～

- 学習ルールの定着** モラル・マナー、仲間意識づくり 社会規範・他者への思いやり 人間関係形成力
チャイム着席等の授業中のモラル・マナーを身に付けさせるとともに、学級の仲間意識を育て、聴き合い教え合い関係をつくる。
- 学習目的の理解** 社会生活との関連付け 学習意欲・主体的行動力 メタ認知・自己理解
学ぶ目的や社会生活との関連を理解させるとともに、1時間の授業構成を理解させ、今行っている活動と、次に取り組む活動との因果関係を明確にする。
- 学習方法の多面化** 言語活動、協働学習、ICT活用 考える力・説明する力・議論する力・創造力・課題解決力
生徒が要約・説明・論述・討論等を行う活動、仲間と学び合う活動や課題解決的な活動、ICT活用等の様々な学習方法により学習を充実させる。
- 社会参画力の育成** 職場体験、社会奉仕 勤労観・職業観 市民性・公共心
将来の進路を決定するために必要なものの見方や考え方を培うとともに、社会の発展に寄与する意識・態度を育て、社会の構成員としての役割を自覚させる。

テーマ

共通テーマ(すべての学校が共通して取り組む)

- 知識・技能を活用した言語活動の充実について
- 協働的な学習(学び合い学習)について

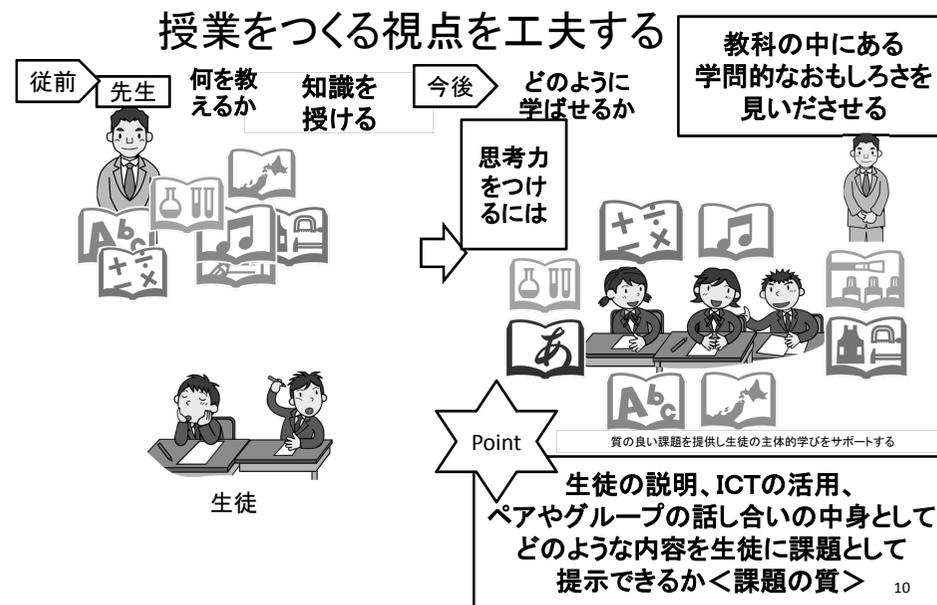
選択テーマ(各校が選択して取り組む)

- ①学力定着に課題のある生徒に対する支援について
- ②学び直し学習の効果的な進め方について
- ③ICTを活用した効果的な指導について
- ④知的な好奇心を喚起する教材の開発について



9

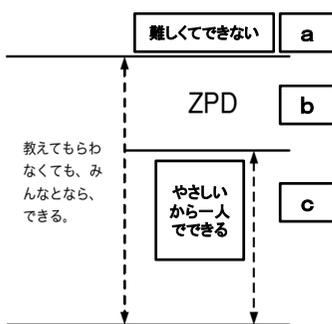
課題解決型の授業を行うには



課題の質を高める

生徒にとって好奇心を持てる

b レベルの課題



- 3つの課題水準で考える

- a 手助けがあってもできない課題
- b 手助けがあるとできる課題
- c 一人でできる課題

- aやcをこなす経験を何回やっても生徒の力は伸びない。
- bを与え、手助けプリントや前に教わったことを使って授業を組み立てることが大切。

Figure: Original by Mitzub'oi Quq Chi]
ZPD, Zone of Proximal Development, зона ближайшего развития.
L.S. Vygotsky: Mind in Society, Development of Higher Psychological Processes, p. 86, Cambridge, Mass. Harvard University Press.

11

授業研究で必要なことは

- 授業を見る視点を鍛える
 - 生徒一人一人の学びの検証
 - 生徒同士の関わりの検証
- 生徒を主体的な学びに誘う手法を考える
 - 授業全体のデザインや課題を検討する
 - 生徒の思考が停滞したときに必要な手立を検討する

生徒の主体的な学習姿勢が見られたか？
生徒がどこでつまづいていたか？
生徒の学習がどこで深まったか？(どこに学びが深まる可能性があったか？)
生徒の学習意欲の喚起や学習習慣の定着が図られていたか？

⇒教科を越えて生徒の学びの実態を見る

12

生徒の授業アンケートの活用

アンケートを年に2回以上実施する

→生徒や先生の様々な変容を数値化して分析する

既存の授業アンケートを活用

→各校のテーマに沿った質問項目を検討する

例)

○一斉授業だけでなく、ペアやグループで話し合ったりする活動が行われていた。

○先生が説明するだけでなく、提示された課題をグループで解決するような活動が行われていた。

○板書を写すだけでなく、レポートや新聞にまとめたりする活動が行われていた。

○授業で学んだ内容を自分で調べたいと思うようになった。

○授業で扱う資料をしっかりと読み取り、分析できるようになった。

13

参考

初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について

中教審への文科大臣諮問
26.11.20

「何を教えるか」という知識の質や量の改善はもちろんのこと、「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視することが必要であり、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）や、そのための指導の方法等を充実させていく必要があります。こうした学習・指導方法は、知識・技能を定着させる上でも、また、子供たちの学習意欲を高める上でも効果的であることが、これまでの実践の成果から指摘されています。

14

まとめ

群馬県高校生ステップアップサポート事業では

協働学習を取り入れる⇔生徒の学びを保障する⇔先生方の専門性が向上する

興味を持つ→分からないことを仲間に聴く・調べる→話し合う

⇔生徒の主体的授業参加

学びのルールづくり、ペアやグループで聴き合い教え合う

⇔生徒同士が関わり合う

生徒に合ったちょっと難しい課題を扱う

⇔課題の質を高める

先生方はすでに目の前の生徒に合った指導や工夫をしながら授業をされている。

⇒協働学習のノウハウを取り入れることでさらに授業スキルを改善できる。組織としての大きなプラスの力が生まれてくる。

15

ステップアップサポート事業とは？

群馬県教育委員会高校教育課

Q1 ステップアップサポート事業とはどんな事業ですか？

A1 生徒がグループやペアで学び合う学習形態を授業の中に積極的に取り入れ、課題解決型の授業展開を推進することで、基礎・基本を着実に定着させ、これからの時代に求められる汎用的な力を身に付けさせる取組です。あわせて、組織的に研究授業や授業研究等の校内研修を実施して教員の専門性を高める授業改善の教員研修を充実させるものです。

Q2 具体的なステップアップサポート事業の中身を教えてください。

A2 各校は、校内研修推進コーディネーターが運営推進役となり、生徒の学びを充実させる取組と教員の専門性を向上させる取組を推進します。また、全ての学校が取り組む共通テーマと各校が1つ以上選択して取り組む選択テーマを、「学習指導の4つの柱」と関連づけて、授業改善研究を高度化させます。

《共通テーマ》

- ①知識・技能を活用した言語活動の充実について
- ②協働的な学習（学び合い学習）について

《選択テーマ》

- ①学力定着に課題のある生徒に対する支援について
- ②学び直し学習の効果的な進め方について
- ③ICTを活用した効果的な指導について
- ④知的好奇心を喚起する教材の開発について

〈学習指導の4つの柱〉

- 1 学習ルールの定着…授業中のモラル・マナーを定着させ、生徒の良好な人間関係や学級の仲間意識を育て、聴き合い・教え合う関係をつくる。
- 2 学習目的の理解…学ぶ目的や社会生活との関連を理解させ、積極的に授業に取り組む態度を育てる。
- 3 学習方法の多面化…生徒が主体的・協働的に授業に取り組めるよう、課題解決的な授業展開や、要約・説明・論述・討論等を行う言語活動、ICT活用等の様々な学習方法を取り入れる。
- 4 社会参画力の育成…社会の発展に寄与する市民性を育て、社会の構成員として必要なものの見方や考え方を培う。

(1) 生徒の学びを充実させる取組

- ① 学年や先生方個人で、重点取組事項と学習指導の4つの柱を関連づけて考察し、生徒の問題（課題）となることを見だし、目標を定めて授業改善に取り組みます。
- ② 生徒がグループやペアで学び合う学習形態を積極的に取り入れて、主体的・協働的に課題解決学習に取り組む授業を推進します。（アクティブラーニング）

(2) 教員の専門性を向上させる取組

重点取組事項と学習指導の4つの柱を関連づけ、組織的に（学年ごとに）研究授業と授業研究会を実施するとともにアンケートや職員研修を実施します。

- ① 研究授業や授業研究会では、学習科学の手法を用いて、生徒のグループに視点をあて、授業中の生徒一人一人の具体的な学びの姿から授業づくりのヒントを得ることを心がけます。
- ② 教員の専門性を高める職員研修を実施します

*（1）（2）については校内研修推進コーディネーターが運営推進役となります。

Q3 国の動向はどうですか？

A3 課題解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（いわゆる「アクティブラーニング」）の重要性が主張されています。また、平成32年度には大学入学希望者学力評価テストが実施されます。

○<H26.11中教審諮問では>

「何を教えるか」という知識の質や量の改善はもちろんのこと、「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視することが必要であり、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）や、そのための指導の方法等を充実させていく必要があります。こうした学習・指導方法は、知識・技能を定着させる上でも、また、子供たちの学習意欲を高める上でも効果的であることが、これまでの実践の成果から指摘されています。

○<大学入学希望者学力評価テストが導入されます>

年度	学習指導要領	大学入試センター
平成27('15)		
28('16)		作問イメージの公表
29('17)		
30('18)		
31('19)	学習指導要領改訂告示	高等学校基礎学力テスト
32('20)	↓35年導入(高校)	大学入学希望者学力評価テスト

「大学入学希望者学力評価テスト」では、主として「知識・技能の活用力」を中心に評価するため、「教科型」に加えて「合教科・科目型」「総合型」問題を組み合わせ出題されます。将来的には「合教科・科目型」「総合型」のみとすることが示されています。（中教審 高大接続部会答申案）

Q4 ステップアップサポート事業で生徒にはどんな力が身に付くのですか？

A4 グループやペアで課題解決に向けて、主体的・協働的に活動する授業を通じて、学ぶ楽しさや仲間づくりとともに、思考力や知識・技能の活用を核としたこれからの時代に求められる汎用的な力を身につけることができます。

- グループやペアで課題に主体的・協働的に取り組むことで
 - ・できない人は、分からない事が出た時点で仲間に教えてもらいます。できる人は仲間に教える事で学習内容の理解が深まります。⇒自己肯定感が生まれ、高まります。
 - ・『自分の意見を言う、仲間の意見を聞く、自分の意見を練り直す』プロセスは、思考力を高め、仲間づくりや互いに支え合う集団づくり、居場所づくりにつながります。⇒表現力・傾聴力・調整力・人間関係形成能力・思考力・メタ認知力が育成されます。
 - ・生徒を授業の主役して、生き生きと（充実感をもって）学べるようにします。
- プログラム学習からプロジェクト学習（課題解決型学習）に変わることで入試対策のためなど、あらかじめ指導する内容が決まっていて、それを効率良く伝えることを重視した知識伝達型のプログラム学習から、生徒の学ぶ必然性や興味関心をもとにして課題を設定し取り組ませる、プロジェクト（課題解決）型学習に変わります。⇒主体的な学習姿勢・意欲・探究心・課題解決力が育成されます。

(4) 高校生ステップアップサポート事業を踏まえた言語活動の充実について

<案1>

ー 授業の振り返りから授業改善へ ー (60分)

ねらい： 知識・技術を活用した言語活動の充実を図り、生徒が主体的に学習に取り組む授業の在り方について協議する。

I 高校生ステップアップサポート事業の概要確認 (15分)

- ・プレゼンテーションソフトで作成した資料を使つての概要説明

II 演習「言語活動を中心とした授業づくり」 (30分)

【グループ作り】

- 担当学年ごとに3～4人で1グループ

1 各教科ですでに実践している言語活動の共有

次の項目について、ワークシートに書き出す・・・5分

① 教科・科目

② 頻度（毎時間、1週間に1度、1ヶ月に1度など）

具体的には、1時間で実施する場合、何分くらいその活動に費やすか

③ 活動の種類・内容

「～を読む」、「～について書く（話す、発表する、話し合う）」など、具体的に記述する

④ 実践してみたの感想や課題

2 グループ内でワークシートに書き出した活動について一人ずつ説明する

(一人につき3分)・・・12分

3 グループで改善するとさらに良い言語活動になりそうなものを1つ選ぶ・・・3分

4 グループで協議し、1つ選んだ活動の改善案をワークシートにまとめる・・・10分

5 各グループの改善案を発表する・・・10分

III まとめ (10分)

案 1 資料

〔個人記入シート〕

演習「自分の授業の振り返り ～言語活動を取り入れた活動について～」

各自の授業を振り返り、言語活動と思われる活動について、下記の該当する部分に具体的にその活動内容を記入してください。

教師 対 生徒	〔一斉授業〕
	〔ペア活動〕
生徒 対 生徒	〔グループ活動〕
	〔クラス全体での活動〕

<案2>

－ 具体的な教科指導例をもとに各教科の授業を考える － (60分)

ねらい： 知識・技術を活用した言語活動の充実を図り、生徒が主体的に学習に取り組む授業の在り方について協議する。

I 高校生ステップアップサポート事業の概要確認 (20分)

・プレゼンテーションソフトで作成した資料を使っての概要説明

II 演習「言語活動を中心とした授業づくり」 (30分)

【グループ作り】

○ 担当学年ごとに3～4人で1グループ

- 1 英語、日本史、数学の各教科について、模擬授業を展開する・・・20分
- 2 各自、「良かった点」、「改善すべき点」を付箋紙に書き出す・・・6分
- 3 グループ内で付箋紙に書き出したものを説明する。その際、「良かった点」、「改善すべき点」のそれぞれの付箋紙を、整理しながら台紙に貼る・・・14分
- 4 グループで協議し、同じような記述内容の付箋紙をグループ化する・・・10分
- 5 各グループで協議した内容を発表する・・・10分

III まとめ (10分)

各グループから出された意見をもとに、自分の授業で「良かった点」をどのように取り入れるか、自分の授業ではどんなところを改善すべきかについて協議する。

○ 実践例 （ 英語 20分 ）

【課題】

ドラえもんの登場人物の一人になりきり、となりの人とペアになりお互いに質問します。質問して分かったことを、クラスで（名前を言わずに）発表し、誰を紹介しているかをみんなで当てます。紹介する内容は、次のような質問をして情報を得てください。

<ペアでの質問例>

What subject do you like?

What do you do after school?

What do you do on weekend?

Where do you want to go in the future?

What do you want to become in the future?

<紹介文>

This is my friend. He/She is _____

単元のねらい

- 1 現在形を使って、友達を紹介できる
- 2 現在形や現在進行形の表現を理解している

単元計画（全2時間）

- 1 時間目・・・自分以外の人を紹介するための現在形（現在進行形）の表現を理解する
- 2 時間目・・・現在形を使って自分以外の人を紹介する（模擬授業）

模擬授業展開例

項目	時間	内容及び留意点
課題の提示	5分	・ドラえもんの登場人物の誰になりきるか考える。
・ペアでお互いに質問しあう。	10分	・ワークシートの質問例を参考に、ペアの相手に質問する。
・質問して得た回答をまとめ、その人物を紹介する英文を書く。	5分	・質問で得られた情報をもとに、その人物を紹介する英文を書く。（模擬授業はここまで） ・この後は、4人のグループになって、それぞれのペアの人物を紹介する活動になることを説明する。

「言語活動の充実について」



群馬県総合教育センター
高校教育研究係

まずは 言語活動をメインとした 英語の授業を 体験してください！

「言語活動の充実について」

<高校外国語での評価の観点>

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。

「言語活動の充実について」

言語活動の充実に関する基本的な考え方

平成20年中教審答申より

言語は()の基盤！

豊かな心を育むためにも重要

- 知的活動(論理や思考)
- コミュニケーションや感性・情緒

基本的国語力の定着…「話すこと」「聞くこと」「書くこと」「読むこと」

言葉の美しさやリズムの体感。記録、要約、説明、論述、討論能力を培う

思考力・判断力・表現力を育むための学習活動

教員研修センター「言語活動を充実させる授業づくり」

1. 「言語活動」とは、
言語による様々な活動のことである。

例えば

- 本や資料を読んだり話を聞いたりして理解する。
- 体験したことや理解してことをもとに思考したり、判断したりする。 なども言語活動である。

つまり

各教科等における学習活動において、知識・技能を習得したり、それを活用して課題を解決するために思考し、判断し、表現する、
ことがすべて言語活動です。

思考力・判断力・表現力を育むための学習活動

教員研修センター「言語活動を充実させる授業づくり」

1. 「言語活動」とは、
言語による様々な活動のことである。

では、「言語」とは？

国語 外国語(英語)

数式 化学式

※ 学習に用いる概念を表す記号全般

思考力・判断力・表現力を育むための学習活動

教員研修センター「言語活動を充実させる授業づくり」

2. 「言語活動」の充実に向けて

「言語活動」を充実させる目的は？

「言語活動」を通して、
各教科の目標の実現や内容の習得する

「言語活動」を通して、
生徒の主体的な学習を促す

※ 「言語活動」自体が学習の目的ではない。
ただし、国語や外国語は「言語活動」を通して
言語能力を身に付けることがねらいである。

思考力・判断力・表現力を育むための学習活動

教員研修センター「言語活動を充実させる授業づくり」

2. 「言語活動」の充実に向けて

「言語活動」を充実させた授業とは？

疑問: 「言語活動」に該当する授業は、すべての教科で行われている？

・じゃあ、今までどおりの授業でいいの？

・それなら、私は前からやっているよ！

※ すべての教員が同じ認識を共有する
すべての教員が今までの指導方法を省みる
そして、「言語活動」としてふさわしい指導方法を共有し、
指導計画に明示し、協働して指導していく

思考力・判断力・表現力を育むための学習活動

平成20年中教審答申より

① 体験から感じ取ったことを表現する。

●日常生活や体験的な学習活動の中で感じ取ったことを言葉や歌、絵、身体などを用いて表現する。

9

思考力・判断力・表現力を育むための学習活動

平成20年中教審答申より

② 事実を正確に理解し伝達する。

●身近な動植物の観察や地域の公共施設等の見学の結果を記述・報告する。

10

思考力・判断力・表現力を育むための学習活動

平成20年中教審答申より

③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。

●需要・供給などの概念で価格の変動をとらえて生産活動や消費活動に生かす。
●衣食住や健康・安全に関する知識を活用して自分の生活を管理する。

11

思考力・判断力・表現力を育むための学習活動

平成20年中教審答申より

④ 情報を分析・評価し、論述する。

●学習や生活上の課題について、事柄を比較する、分類する、関連づけるなど考えるための技法を活用し、課題を整理する。
●文章や資料を読んだ上で、自分の知識や経験に照らし合わせて、自分なりの考えをまとめてA4一枚(1000字程度)といった所与の条件の中で表現する。
●自然事象や社会的事象に関する様々な情報や意見をグラフや図表などから読み取ったり、これらを用いて分かりやすく表現したりする。
●自国や他国の歴史・文化・社会などについて調べ、分析したことを論述する。

12

思考力・判断力・表現力を育むための学習活動

平成20年中教審答申より

⑤ 課題について、構想を立てて実践し、評価・改善する。

- 理科の調査研究において、仮説を立てて、観察・実験を行い、その結果を整理し、考察し、まとめ、表現したり改善したりする。
- 芸術表現やものづくり等において、構想を練り、創作活動を行い、その結果を評価し、工夫・改善する。

13

思考力・判断力・表現力を育むための学習活動

平成20年中教審答申より

⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。

- 予想や仮説の検証方法を考察する場面で、予想や仮説と検証方法を討論しながら考えを深め合う。
- 将来の予測に関する問題などにおいて、問答やディベートの形式を用いて議論を深め、より高次の解決策に至る経験をさせる。

14

言語活動を充実させる指導と事例

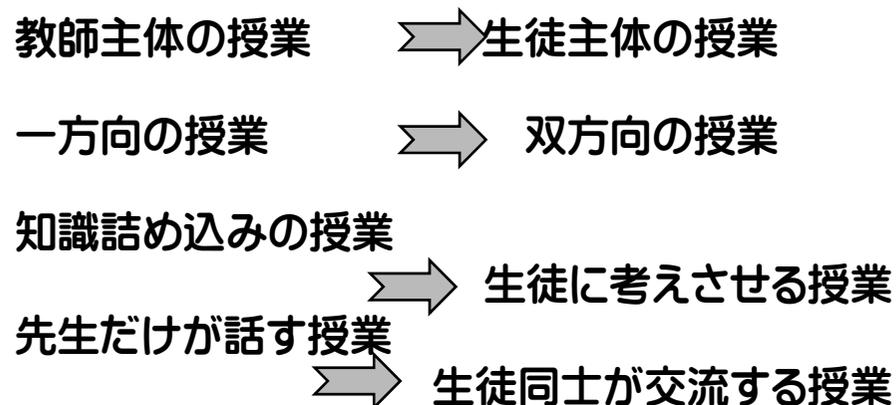
高等学校の指導事例集

- 現代の社会生活で必要とされる実用的な文章を読んで内容を理解し、自分の考えをもって話し合う。
- 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて取舍選択してまとめる。
- 課題について自分の考え方を板書し、どのようにすればよりよい考えや表現になるかを考える。
- 適切な主題を設定し、資料を活用して探究し、考えを論述する。
- 観察、実験などの結果を分析・解釈して自らの考えを導きだし、表現する。
- 学習の成果を伝え合ったり、助言し合ったりして、新たな追究に向かう。
- 自己評価や相互評価を通して、自己の変容を確認する。

15

思考力・判断力・表現力を育むための学習活動

「言語活動を充実させる授業づくり」



教師と生徒の活動に比率 教師：生徒＝2：8

16

言語活動の充実を図るために

演習

1 各教科ですでに実践している言語活動について、次の①～⑤を、ワークシートに書き込む(5分)

- ①教科・科目
- ②活動の種類・内容
(～を読む、～について書く(話す、発表する、話し合うなど、具体的に記述する)
- ③時間(1時間で実施する場合、何分くらいかけるか)
- ④頻度(毎時間、1週間に1度、1ヶ月に1度など)
- ⑤実践上の課題

17

言語活動の充実を図るために

演習

- 2 グループで、一人ずつワークシートに書き出した活動について説明する。一人3分(12分)
- 3 グループ内のそれぞれの発表を聞いて、改善するとより良い言語活動になりそうなものを1つ選ぶ。(3分)
- 4 グループで協議し、1つ選んだ活動の改善案をホワイトボードに書き出す(まとめる)。(10分)
- 5 各グループの改善案を発表する。
(各グループ2分)

18

言語活動の充実を図るために

キーワード

- 教材研究のあり方の見直し
 - ・説明・発問・指示精選→言語活動の確保
 - ・協議には、価値ある課題が必要
- ねらい(付けたい力)に合った言語活動の選択。
- 単元を貫く言語活動の授業づくり
- 教科間・学年間の連携
 - ・教科の特性を生かした言語活動
 - ・3年間を見通した段階的・計画的な言語活動

19



これからは、校内研修や教科の会議が必要になってきますね。計画的に会議を持つことにしましょう！

20

○ 実践例（日本史 20分）

【課題】（ワークシート）

福沢諭吉「脱亜論」を読んで、内容を書き出してみよう。

- 視点 ① 朝鮮・清と日本との違い
② 福沢の主張

展開例

項目	時間	内容及び留意点
課題の提示 （自力解決）	5分	・福沢諭吉「脱亜論」を読んで、各自で自分の考えを書く。 ・視点①、②に留意するように促す。
意見の交流 （協議）	10分	・グループ（4～5人）になり、グループ内で課題に対する各自の考えやその後の日本人のアジアに対する意識にどのような影響を与えたかについて意見交流し、内容をワークシートに書く。 ・各グループで交流した内容を、いくつかのグループに発表してもらおう。 （思考力・判断力・表現力）
振り返り	5分	・意見交流で出された意見を共有する。 ・協働学習（学び合い）の意義を再確認する。 ・今日の授業を受けて、気付いたことや新たに疑問に思ったことを書く。 （関心・意欲・態度）

▼福沢諭吉「脱亜論」を読んで内容を書き出してみよう。

- 視点
- 1 朝鮮・清と日本との違い
 - 2 福沢の主張

○自分の考え	○グループ活動で新たに気付いたこと
--------	-------------------

○福沢諭吉の「脱亜論」が、その後の日本人のアジアに対する意識にどのような影響を与えたと考えますか？

○今日の授業を振り返って、気付いたことや疑問に思ったことを書いてください。

○ 実践例（数学 20分）

【課題】

40名のクラスで、3名のクラス代表の選挙を行うとき、最低何票入れば当選することができるか

展開例

項目	時間	内容及び留意点
課題の提示 (自力解決)	5分	<ul style="list-style-type: none">• 各自で問題を解く。• ヒントは出さない。
意見の交流 (協議)	10分	<ul style="list-style-type: none">• グループ(4~5人)になり、グループ内で各自の解き方、考え方について意見交流する。• 各グループで交流した内容を、いくつかのグループに発表してもらう。
まとめ	5分	<ul style="list-style-type: none">• 意見交流で出された意見を共有する。• 協働学習(学び合い)の意義を再確認する。 <p>《補足》 数学科の教員に、この課題の数学的なとらえ方の説明をしてもらう。</p>

(5) 高校生ステップアップサポート事業における評価の在り方

- － 協働学習（言語活動）を取り入れた授業において、
生徒の学習到達度をどのように評価するか ー （60分）

ねらい： ステップアップサポート事業を踏まえた授業改善で、生徒の学習到達度をどのように評価するかについて協議します。

I 高校生ステップアップサポート事業の概要確認 （8分）

- ・プレゼンテーションソフトで作成した資料を使つての概要説明

II 演習「言語活動を中心とした授業づくり」 （50分）

【グループ作り】

教科ごとに3～4人で1グループ（人数の少ない教科は合同で）

1 演習1：各教科で実施した協働学習（言語活動）について （30分）

- (1) 各自で実施してきた協働学習（言語活動）を付箋紙に書き出す・・・5分
 - ・付箋紙1枚に、1つの活動を記入
- (2) 一人ずつ付箋紙に書き出した活動を説明する・・・10分
 - ・付箋紙を台紙に貼りながら一人ずつ説明
 - ・説明を聞きながら、質問してもよい
- (3) 台紙に貼り出され活動を同じような内容でまとめて整理する・・・5分
 - ・各教科から、活動の発表
- (4) 教科ごとに全体の前で、実施してきた活動を紹介する・・・10分

2 演習2：各教科で実施している協働学習（言語活動）を取り入れた授業において、生徒の学習到達度をどのように評価するか （40分）

- (1) 台紙を見ながら、実施してきた協働学習（言語活動）について、それぞれの評価方法を付箋紙に書き出す・・・5分
 - ・1枚の付箋紙（演習1とは別の色の付箋紙）に、1つの具体的な評価方法を記入する
- (2) 一人ずつ付箋紙に書いた評価方法の説明する・・・10分
 - ・説明を聞きながら、質問してもよい
- (3) 書き出された評価方法を整理しながら、より良い評価方法について協議する
・・・15分
- (4) 教科ごとにどのような評価方法が議論されたかについて発表する・・・10分

III まとめ （2分）

評価方法については、自校生徒の実態を踏まえたものであることを確認する。

演習 1

協議「協働学習（言語活動）を取り入れた活動づくり」

<p>〔活動の概要〕</p> <p>時間</p> <p>頻度</p>	<p>〔活動のねらい〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ <p>〔活動の概要〕・・・なるべく具体的に！</p>
<p>〔評価〕</p> <p>方法</p> <p>時期</p>	<p>〔評価の方法〕・・・なるべく具体的に！</p> <p>〔評価規準〕</p>

「言語活動の充実と学習評価について」



群馬県総合教育センター
高校教育研究係

〔講義の内容〕

- 1 評価の目的
 - ・ 誰のための評価か？
- 2 評価の手順
 - ・ PDCAサイクル
- 3 中学校の評価について(英語の場合)
 - ・ 観点別評価の実際
- 4 高校での評価について(英語の場合)
 - ・ 具体的な評価方法

1 評価の目的

- ・ 何のために評価をするのか？
- ・ 誰のための評価か？



6. 高等学校における学習評価の在り方について

○ 「生きる力」をはぐくむという学習指導要領の趣旨は、小・中・高等学校すべてに共通するものである。現在、高等学校の学習評価については、観点別学習状況の評価の趣旨を踏まえた学習評価を行い、授業の改善につなげるよう努力している学校がある一方で、ペーパーテストを中心としていわゆる平常点を加味した、成績付けのための評価にとどまっている学校もあるとの指摘があり、小・中学校の状況とは異なっている点も見られる。

○ しかし、学習指導と学習評価を一体的に行うことにより、生徒一人一人に学習内容の確実な定着を図り、授業の改善に寄与するという学習評価の重要性は異なるものではない。また、小・中学校において観点別学習状況の評価が定着していることから、高等学校段階においても、学習評価の前提となる指導と評価の計画や、観点に対応した生徒一人一人の学習状況を生徒や保護者に適切に伝えていくなど、学習評価の一層の改善が求められる。

「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」
(2010年3月24日 文部科学省教育課程部会より)

1. 評価の目的

<授業>

・教師中心の授業
一方的な講義形式



・生徒が中心となる授業
生徒の発話を引きだし、生徒間の自律的なやり取りをうながす

<評価>

・教師のための評価
中間考査や期末考査で教科書の内容について、知識を問う問題がほとんど



・生徒のための評価
自分の到達度が確認できる
自分の足りないところが分かる

○ 誰のための評価か？

① 生徒のため

生徒に、学習の到達程度 of 情報を与えることを目的とする。

・先生が生徒に対し、どこまで分かっているか、どこが間違っているか、これからどのような学習をするかという情報をフィードバックするのが目的。

・テストの結果と授業で学んでいることと関連付けて提示することで、生徒は正しく自己評価し、何をどう学習していけばよいかについて、計画を自分で作り上げることができる。

・生徒には保護者も含まれる。

○ 誰のための評価か？

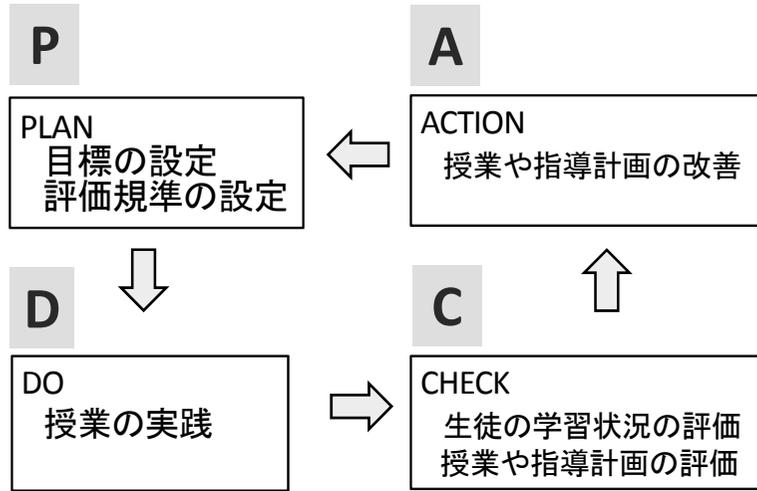
② 先生のため

- ・先生が学習指導のための資料を得ることを目的とする。
 - ・学期や単元が始まる前には、生徒のレディネス(学習準備状態)を把握し、指導内容の方針を決めるために用いる。
 - ・また、指導途中ではどの程度理解が進んでいるかの把握に用いる。
 - ・指導後では指導内容、方法はどうかを客観的に把握するのに用いる。
- ⇒ 把握した情報を基に、次の学期、単元、学年に向けて指導方針や方法、教材などを決める。

2. 学習指導と評価の具体的な手順

<評価の進め方>

- (1) 単元又は題材の目標を設定する
- (2) 評価規準を設定する
- (3) 評価規準を「指導と評価の計画」に位置付ける
- (4) 評価結果のうち「記録に残す場面」を明確にする授業を行う
- (5) 観点ごとに総括する



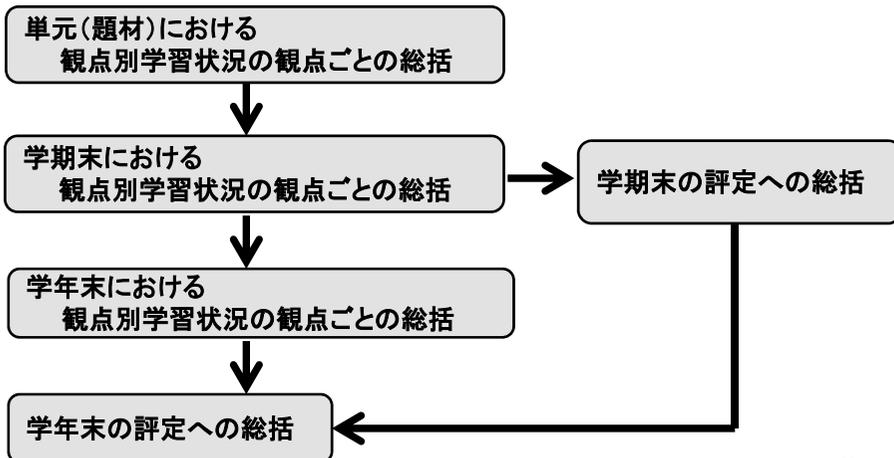
2. 中学校の評価について

<中学校外国語での評価の観点>

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。

2. 中学校の評価について

<中学校外国語での評価の方法>



2. 中学校の評価について

<中学校外国語での評価の方法>

組	番	氏名	1 学期																	
			UIB	UIP	UIP	関心	UIAR	U2AR	U3AR	中表現	期表現	表現	中全体	中理解	期全体	期理解	理解計	中知識	期知識	知識計
1	1	○○○○	1	3		8	3	5		14	16	38	88	20	83	17	208	54		104
1	2	△△△△	1	3		8	4	3		5	9	21	55	14	56	13	138	36	34	70
1	3	××××				0		5		1	0	6	17	8	8	0	33	8	8	45
1	4		2	5		12	4	5		8	2	19	45	10	22	2	79	27	18	101
1	5		2	5		12	5			15	12	32	83	13	74	16	186	55	46	101
1	6		3	5		13	5	4		16	18	43	96	24	92	22	234	56	52	108
1	7							5		10	8	23	82	24	28	0	134	48	20	68
1	8		1	5		11	5	5		10	16	36	70	15	78	12	175	45	50	95
1	9		1	5		11	5	5		16	18	44	100	26	100	26	252	58	56	114
1	10		3	5		12	4	5		19	9	28	96	14	79	19	176	41	50	91
1	11					0	5			10	12	27	83	22	79	17	201	51	50	101
1	12		3	5		11	3			11	7	21	74	14	71	16	175	49	48	97
1	13					9	3			12	18	33	88	20	89	18	215	56	53	109
1	14		1	5		11	5	5		13	9	32	87	20	66	8	181	54	49	103
1	15		1	5		6	4			9	8	21	76	17	62	7	162	50	47	97
1	16		1			5	5	5		13	18	41	89	20	97	23	229	56	56	112
1	17					7				6	4	10	41	10	22	0	73	25	18	43
1	18		1	5		11	3	3		16	16	38	93	24	91	19	227	53	56	109
1	19		1	5		11	5			16	12	33	95	24	82	16	217	55	54	109
1	20		1	5		11	5	5		11	14	35	69	14	76	14	173	44	48	92
1	21		1	5		11	5	5		14	12	31	93	24	84	18	219	55	54	109
1	22		1	5		11	4	5		12	14	35	82	20	76	12	190	50	50	100
1	23		4	5		14	5	5		14	18	42	94	26	97	23	240	54	56	110
1	24		4	5		14	5	5		15	16	41	96	26	90	18	230	55	56	111
1	25		2	5		12	5	5		16	14	35	94	22	85	19	220	56	52	108
1	26		1	5		11	5	5		12	14	36	88	24	82	18	212	52	50	102
1	27		2	5		11	5	5		12	10	32	83	18	89	23	213	53	56	109
1	28		3	5		13	5	5		16	16	42	95	24	88	22	229	55	50	105
1	29		2	5		12	5	5		16	18	44	97	26	86	17	226	55	51	106
1	30		3	5		13	5	5		12	9	31	77	16	80	19	192	49	52	101
1	31		3	5		13	5	5		16	18	44	99	18	87	23	227	55	56	111
1	32		1	5		11	5	5		14	33	90	22	22	19	212	55	50	105	

2. 中学校の評価について

＜中学校外国語での評価の方法＞

組	番	氏名	AA	AB	AC	AD	AE	AF
			関心	表現	理解	知識	評価	教科所見1学期
1	1	○○ ○○	B	B	B	B	3	
1	2	△△ △△	B	B	B	B	3	
1	3	×× ××	C	C	C	C	1	
1	4		B	B	C	C	2	
1	5		B	B	B	B	3	
1	6		A	A	B	A	4	
1	7		C	B	B	B	3	
1	8		A	B	B	B	3	
1	9		A	A	A	A	5	
1	10		B	B	B	B	3	
1	11		C	B	B	B	3	
1	12		C	B	B	B	3	
1	13		B	B	B	A	3	
1	14		A	B	B	B	3	
1	15		C	B	B	B	3	
1	16		B	A	B	A	4	
1	17		C	C	C	C	1	
1	18		B	B	B	A	3	
1	19		B	B	B	A	3	
1	20		A	B	B	B	3	

13

3. 中学校の評価について

＜中学校外国語での評価の方法＞

組	番	氏名	学年末				評価
			関心	表現	理解	知識	
1	1	○○ ○○	B	A	B	B	3
1	2	△△ △△	C	B	B	B	3
1	3	×× ××	B	C	C	B	2
1	4		B	B	C	B	3
1	5		A	A	B	A	4
1	6		A	A	B	A	4
1	7		C	C	C	C	1
1	8		B	B	B	B	3
1	9		A	A	A	A	5
1	10		B	B	B	B	3
1	11		C	C	B	C	2
1	12		C	C	C	B	2
1	13		A	B	B	B	3
1	14		B	A	B	B	3
1	15		B	B	B	B	3
1	16		B	A	A	B	4

14

4. 高校の評価について

＜高校外国語での評価の観点＞

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。

15

4. 高校の評価について <評価方法の工夫改善に向けて>

① 「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」についての評価方法

- ・ ペア活動やグループ活動で発言の積極性
- ・ 教室において生徒が手を上げ(て答え)た回数
- ・ 予習・復習の実施状況(ノートの確認)
- ・ 単元の復習として配布したプリントの提出状況

など、授業での様子や日々の学習状況から評価する

16

4. 高校の評価について <評価方法の工夫改善に向けて>

②「外国語表現の能力」についての評価方法

- ・ペアワーク、グループワークでの発言内容
(1時間の中で全員は不可能)
- ・インタビュー・テスト
(生徒を一人ずつ呼んでALTと合同で評価する)
- ・プレゼンテーション
- ・スピーチやディベート
- ・自分の意見を英文で書かせる
(定期テストでの出題も可能)

など、一人一人の表現能力を見取るためには、時間的、人数的な制約が多い

4. 高校の評価について <評価方法の工夫改善に向けて>

③「外国語理解の能力」についての評価方法

- ・単元全体の要約を英語で書かせる
- ・内容理解について口頭にて英語で質問する
(文字を用いての実施なら定期テストの出題も可)
- ・True / False 問題
(定期テストでの出題可)

4. 高校の評価について <評価方法の工夫改善に向けて>

④「言語や文化についての知識・理解」についての評価方法

- ・語彙、文法についての問い
(授業中の小テストや定期テスト)
- ・発音、イントネーションに関する問い
(授業中での小テストや定期テスト)
- ・場面や状況、目的に応じた表現方法
(電話での対応の場面などで表現方法の確認:インタビューテスト)
- ・場面や状況、形式に応じた
(手紙の形式などで表現方法の確認:定期テストで英作文問題)
- ・言語の背景にある文化についての知識を問う
(授業中の小テストや定期テスト)

4. 高校の評価について

学校全体としての組織的・計画的な取組について

- ・評価の方針, 方法, 体制, 評価結果などについて, 日頃から教師間の共通理解を図る。
- ・授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図る。
⇒ 担当教科, 経験年数等に左右されず, 教師が共通の認識をもって評価に当たることができるようになる。
⇒ 教師にとって過大な負担とならないかなどについて確認し合うことで, 効果的で効率的な評価を行うことにつながる。

※ 以上のことを学校として組織的に実施するために, 校内研究・研修の在り方を工夫する必要がある。